

大阪府立天王寺高等学校

令和4年度 第1回 学校運営協議会 記録

日時：令和4年6月18日（土）10：30～12：00

会場：大阪府立天王寺高等学校 教室および会議室

出席者：【委員】荒木 祐二、浮邊 亜紀子、山東 功、土肥 純平、山下 由美子

【事務局】西田 恵二（校長）、内堀 晴則（教頭）、石田 智恵（事務長）、

井上 孝介（首席・SSH 主担）、川邊 茂樹（首席）、的場 俊昭（進路指導主事）

田端 宏道（書記）

1. 授業見学

10：30～10：55 3年 学部学科紹介 [体育館]

2年5組 創知Ⅱ（ディベート）／2年4組 英語ⅡJ（NET）

2. 開会

開会後山東氏を会長に、浮邊氏を副会長に依頼して承諾

3. 会長挨拶

授業見学の感想・見学途中に見かけた化学で、化学ノートが未だに続いていることに驚き、また良い伝統が続いていることが嬉しい。

4. 校長挨拶

現在のコロナと学校の活動について、運動会、進路講演会、京都大学研修会、中学生説明会を行えた。水泳訓練やあしび山荘林間学校を予定している。

5. 協議

(1)令和4年度学校経営計画及び学校評価について

以前の学校協議会にて承認済み。進路の最終数値を付け足している。今回は方針を確認したい。「授業第一主義、鍛錬主義、本物志向、課題研究、文武両道」は継続していく。天高スタンダード育成プログラムに則って実施していく。SSHでは知的好奇心を大事にしていきたい。数値では測れない非認知能力を大切にしていきたい。現在の大きな課題は教員の資質の向上と働き方改革である。

(2)資料説明

・GLHS卒業時アンケート

令和4年3月卒業生について、10校で同じアンケートを実施している。比較できる30問中29問で肯定的な意見が10校平均を上回っている。特に学習意欲を問うなかで「投げ出したいくない」

「知識はいずれ役に立つ」などの項目の数値が高い。

・進路指導部より

例年通りの進路指導を行ってきた。学校の授業を大切にしてほしいという教員の思いが生徒にも伝わっているようである。共通テストが難化したが、現役合格者数は増加した。近年はコロナ感染症蔓延による影響から強い現役志向を持つ生徒がいるため、私学の受験数が増加している。しかし、資料の合格者数と実際の進学者数に差があることから、現役進学を最優先しない者もいることがうかがえる。

・令和4年度（V期1年目）SSHの取り組み

V期の申請が通り、「突出人材の育成」と「持続可能なシステムの構築と普及」をテーマとしている。予算については重点枠がなくなったこともあり減少したが、これまでと同じ質の行事を実施できるよう工夫したい。77期1年生から新教育課程となり、創知についても見直しをしている。創知Iではこれまでの取組みを「探究」として1単位、「情報」の内容を1単位として実施している。ディベートの準備を1年次から行う形にしている。新たな取り組みとしては「野人の轍」と銘打って卒業生の追跡調査を行うことで突出人材育成についてのストーリーを発見して共有化することをめざしている。従来の天高アカデミアに加えて周辺住民や近隣中学生、他校生もオンラインなどで参加できるアカデミア+（プラス）を実施して活性化を図っている。

・令和4年度GLHSの取り組み

コロナウイルス感染症の状況次第では12月に海外研修を実施できるよう計画中である。実施不可能と判断した場合は昨年度同様にGL10校生徒を集めて国内研修を実施する予定である。他の海外交流についても現段階では実施する方向で動いているが、状況によりオンライン交流なども取り入れていく。教員の教科指導力向上を図るGLHS教員研修では予備校講師との交流や他校教員との協議の時間を確保する。

(3)質疑応答及び意見交換

委員：卒業時のアンケートの結果からいかに生徒の学校生活の満足度が高いかがわかる。教員の自己満足になっていないことが読み取れる。

委員：アンケートにある「後輩のために役に立ちたい」という考えの数値が高い。本日見学した学部学科紹介に参加している卒業生たちの姿勢からもみてとれる。どのようにこれだけの卒業生を募っているのか。

事務局：高校時代にそれぞれの行事で接した卒業生をロールモデルとして憧れる現役生が多く、いつかは自分も天王寺高校に還元したいと考える卒業生が戻ってきてくれている。卒業生参加の各行事でも同様の流れができています。

委員：卒業時アンケートで各質問の「とてもそう思う」の数値が去年よりほとんどの項目で約10ポイント下がっているのはなぜか。教員の働き方改革は進んでいるのか。授業第一主義で高いパフォ

ーマンスを必要とするために教員にも休みが必要だと思いが取れているのか。授業の様子を見ているとマスクのせいかもしれないが生徒の声が聞き取りづらい。

事務局：「とてもそう思う」のポイントが下がっているのは10校全てが同じ傾向にあるため、コロナウイルス感染症蔓延の影響であると考えられる。ただし、「まあそう思う」のポイントが同程度高くなっているため、集計時の肯定的な回答の割合は例年とほぼ同水準である。教員の勤務については、生徒が頑張っているのでも先生も頑張ってしまう。それぞれ声掛けして休ませるようにするしかない。コロナ蔓延が落ち着いて脱マスクが進むのを待っている。屋外では距離を置けば外してもよいという指示も出ており、体育の授業では外す方針である。

委員：マスクを外す場面は生徒に考えさせてみるのがよいかも。それこそディベートのテーマにもなりうるのでは。若い先生が無理をしていないか。ベテランから力の抜き方を教えてもらったりしているか。

事務局：校内の教員年齢構成として、いわゆるベテラン教員が極端に少ない状況が起きている。30代の教員層がとても厚くなっており、ベテランから中堅、中堅から若手へとノウハウを意識的に伝えるようにしている。

委員：学習に対する意識でわずかではあるが否定的な数値がでている。学校生活であまり活躍できなかった子がいたのかもしれない。

事務局：中学生の頃は勉強で苦労をすることがなかったが、高校になって授業がわからなくなってしまった生徒もいる。その子へのケアをしなければならぬし、生徒に寄り添った指導をできるかが大事である。

委員：外部との交流による風通しも必要。刺激や救いがうまれる。

委員：自分なら今回見学した授業を現役生と同じように参加できるのか疑問である。生徒の少ない教室があったのはなぜか。学部学科説明会では体育館で集中して卒業生の話聞いていたのはすごい。ほかの10校の生徒のアンケートに対するものは高校生活に対するモチベーションが低かった。部活動委託で働き方改革はできるのか。

事務局：かつてと比べてアクティブラーニング型の授業が増えているのは事実である。文理学科では教員の配当が多いため少人数授業ができています。卒業生の参加する行事では憧れもあり、生徒の期待感が現れていると考える。部活委託については個々の事情にもよる。部活指導をしたくて教員になっている顧問もいる。専門指導ができない部には顧問を多く配置しているが主顧問に仕事が集中することもある。

委員：部活動の外部指導員は上手く活用できれば学級とはちがう指導が可能である。アンケートから天王寺高校の生徒らしい驕り高ぶらず泥臭い部分がみてとれる。

6. 閉会

今後の予定確認。第2回は11月26日（土）午前、第3回は1月21日（土）午前開催の予定。